

平成24年行政事業レビューシート (内閣府)

事業名	科学者間ネットワークの構築		担当部署	日本学術会議事務局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	事業開始：昭和24年度		担当課室	企画課長		清水誠		
会計区分	一般会計		施策名	83 科学者間ネットワークの構築				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	日本学術会議法		関係する計画、通知等	—				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	日本学術会議法第2条に基づき、わが国の科学者の内外に対する代表機関(全国約84万人の科学者の代表として選出された会員210名と連携会員約2,000名で構成)として、科学者間交流を推進し、科学者コミュニティ内の連携・協力体制を強化することで、科学の向上発達を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映浸透させること。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	科学者間のネットワーク構築に寄与するため、各地域で、日本学術会議で集積した研究成果や学術情報の提供を行うほか、地域の科学者からの意見・要望等を聴取するため、科学者懇談会、地区会議公開講演会を開催する。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求		
		当初予算	23	17	13	8	8	
		補正予算	△0	-	-	-		
		繰越し等	-	-	-	-		
	計	23	17	13	8			
	執行額	15	14	13				
執行率(%)	65%	83%	99%					
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値(24年度)	
	地区会議学術講演会への参加者アンケート(24年度から実施)で、参加者の満足度についての調査項目で肯定的に評価した者の割合(平均値)			成果実績	%	—	—	80
			達成度	%	—	—	—	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込	
	地区会議公開講演会の開催件数			活動実績(当初見込み)	回	9 (7)	9 (7)	8 (7)
	活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込	
	地区会議の開催 (地区会議は、当該地区の事業計画等を作成し、その作成・実施に当たっての情報収集・検討等を行うものである。そのため、会議の開催回数等の定量的な実績ではなく、会議を開催し事業計画等の作成に関する事務を適切に行うことが重要であるので、定性的な活動指標をたてることとした。)			活動実績(当初見込み)	実施 (実施)	実施 (実施)	実施 (実施)	— (実施)
単位当たりコスト	1,645千円(円/回)		算出根拠	23年度執行額÷実施回数 13,163千円÷8回				
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由				
	委員手当	1						
	会員手当	1						
	諸謝金	0						
	職員旅費	1						
	委員等旅費	2						
	庁費	3						
	計	8						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	日本学術会議は、我が国の内外に対する代表機関として、科学の向上発達を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映浸透させることを目的としている(日本学術会議法第2条)。そうした目的を踏まえ、地域の科学者と意思疎通を図り、地域社会の学術の振興に寄与するという役割を果たすため、地区会議及び地区会議公開講演会を開催する必要がある。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	経費縮減の面から、会場借り上げはできるだけ無償で借りられる関係大学の施設を使用する等の努力を行っている。また、手当、謝金及び旅費についても関係法令に基づき各個人に適切に支給している。ポスターの印刷などについても、適正な契約手続きを行い、受注者に対して職員が指導・監督を行える体制をとっており、予算の支出先・使徒の把握については、十分な水準になっている。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	地区会議では、学術成果の情報共有・還元場として学術講演会を開催しているほか、日本学術会議の地区会議構成員及び中央の会員、地域の科学者との意見交換会を開催し、インターフェイスの意思疎通を行っている。東京から各地区へ必要最小限の人を派遣し科学者と対面でのやり取りをするという事業手段は、費用面でも内容においても実効性の高い手段である。 なお、地域社会への学術成果の還元や地域の科学者と学術会議との意思疎通が、円滑に、より充実した形で行われるよう、24年度から、地区会議参加者に対してアンケート調査を行い、満足度や要望等を把握し、今後の地区会議の運営・内容の向上に努めることとしている。これに伴い、アンケート調査における肯定的評価の割合を24年度からの成果目標として立てたところである。 また、地区会議主催公開講演会は開催地域の地方紙に記事掲載されるなど地域社会に広く認知されており、これは学術成果の還元に係る成果の一端といえる。 活動実績については、見込みどりの開催回数となっており、適切であるといえる。 成果物の活用については、学術講演会の結果報告をホームページ上に掲載するなどの広報活動を通じ、国民に活動成果を還元することで、活動成果の活用を努めている。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	—	※類似事業名とその所管部局・府省名	
○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		
点検結果	<p>日本学術会議は、我が国の内外に対する代表機関として、科学の向上発達を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映浸透させることを目的としている(日本学術会議法第2条)。そうした目的を踏まえ、地域の科学者と意思疎通を図り、地域社会の学術の振興に寄与するという役割を果たすため、地区会議及び地区会議公開講演会を開催する必要がある。</p> <p>【成果指標、活動指標の検証】 各地区(北海道、東北、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄)において、地域及び最近の話題などをテーマとした地区会議主催公開講演会、地域の科学者の意見を聴く場である科学者懇談会を合計8回開催し、地域の学術振興、科学者間ネットワークの構築に貢献している。 なお、学術講演会の開催に際しては、地域社会と関係の深いテーマや、議論が高まっているなど時宜にかなったテーマ、演者を選定している。 例えば、平成23年度においては、東日本大震災が発生した東北地区会議では「東日本大震災からの復興と科学技術」というテーマで、地域の復興へ向けた科学技術の役割という観点から講演会を開催しており、また、近畿地区会議では、最近、大学教育の在り方が議論されている中で、最近の日本の大学の世界における評価について様々な観点から検証する講演会を行っている。地区会議主催公開講演会は開催地域の地方紙に記事掲載されるなど地域社会に広く認知されており、これは学術成果の還元に係る成果の一端といえる。 また、前回の予算監視・効率化チームの所見を踏まえ、本事業の在り方について点検を行った。地区会議については、日本学術会議の機能強化の一環として、地区会議の固有の活動を強化することとしており、それぞれの地域の固有の問題に関し、地域からの情報発信は今後も様々な形態で行うことが重要であることを確認し、地域主体の事業として継続することとした。但し、地区会議の開催に当たっては、ボランティアで各大学に作業協力を依頼するとともに、経費の負担減につながるような会場選定を行うこととした。地区会議は、日本学術会議と地域の科学者が対面で情報提供や意見交換を行うことにより、双方の意見や考え方を明確かつ迅速に理解することに意義をもつ事業である。今後も当事業がより効率的かつ実効性のある形で実施できるよう、適時適切に点検を行いつつ実施していく。</p> <p>【今後の方向性】 地区会議主催公開講演会の参加者に対し、参加者の満足度や要望等を把握するためアンケート調査を行うなどの取組をし、地域の参加者が何を求めているのかを把握することとしたい。</p>		
	予算監視・効率化チームの所見		
現状通り	引き続き事業の適切な進捗管理、予算の効率的執行に留意すべき。なお、事業の成果及び効果については、国民に分かりやすく説明するよう留意すべき。		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
執行等改善	地区会議の開催に当たっては、前年に引き続き各大学の協力を得て経費の負担減につながるような会場選定を行う等、効率的執行を図る。		
補記(過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	0160	平成23年行政事業レビュー	0167

日本学術会議事務局企画課
13.2百万円

〔 地方における活動を充実させるために必要な経費等 〕

→ 【随意契約(少額)】

A. 民間企業(4社)
1.1百万円

〔 地区会議学術講演会のポスター等印刷経費 〕

B. 民間企業等(3社)
0.8百万円

〔 地区会議学術講演会会場等借料 〕

C. 民間企業(5社)
0.6百万円

〔 地区会議学術講演会のポスター等梱包・発送業務 〕

D. 民間企業等(3社)
0.3百万円

〔 地区会議の看板作成業務 〕

E. (財)日本学術協力財団
0.3百万円

〔 月刊誌「学術の動向」購入経費 〕

F. (株)東京カップ
0.1百万円

〔 産学官連携功労者表彰経費 〕

→ 【旅費・手当:直接】

G. 会員・連携会員等(298人)
10.1百万円

〔 会員・連携会員等の旅費・手当等 〕

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
しているかについて補足する)
(単位:百万円)

(注) 計数は原則四捨五入によっているため、資金の流れ別紙の合計とは合致しないものがある。

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につい
 て記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
費目	使途	金額 (百万円)	目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
費目	使途	金額 (百万円)	目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
費目	使途	金額 (百万円)	目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)成光社	日本学術会議東北地区会議学術講演会ポスター等の印刷	0.4	随意契約	-
2	(株)双文社	日本学術会議北海道地区会議ニュース(No.44)等の印刷	0.4	随意契約	-
3	(株)高春堂	日本学術会議地区会議封筒の印刷	0.2	随意契約	-
4	メディアランド(株)	日本学術会議中部地区会議ニュース(No.132)の印刷	0.1	随意契約	-

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)エフ・ティー・シーホテル開発	日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会開催における会場賃貸借	0.3	随意契約	-
2	(株)ニューウェルシティ宮崎	日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会における会場賃貸借	0.3	随意契約	-
3	国立大学法人 京都大学	日本学術会議近畿地区会議学術講演会における会場賃貸借	0.2	随意契約	-

C.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)成光社	日本学術会議東北地区会議学術講演会ポスター等の発送等	0.2	随意契約	-
2	(株)アイピーティー	日本学術会議近畿地区会議ニュース(No21)の発送等	0.2	随意契約	-
3	(株)双文社	日本学術会議中部地区会議ニュース(No132)の発送等	0.2	随意契約	-
4	メディアランド(株)	日本学術会議北海道地区会議ニュース(No44)の発送	0.1	随意契約	-
5	(株)サンヨー	日本学術会議中国・四国地区会議学術講演会ポスター等の発送等	0.1	随意契約	-

D.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)エーシー	日本学術会議中国・四国地区会議学術講演会看板作成	0.2	随意契約	-
2	(社)芝蘭会	日本学術会議近畿地区会議学術講演会看板作成業務	0.1	随意契約	-
3	北海道大学生協同組合	日本学術会議北海道地区会議学術講演会看板作成業務	0.1	随意契約	-

E.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)日本学術協力財団	月刊誌「学術の動向」購入	0.3	随意契約	-

F.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)東京カップ	第9回産学官連携功労者表彰に係る表彰状等の購入	0.1	随意契約	-

G.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	会員A	フォーラム出席旅費・手当	0.0	-	-
2	会員B	〃	0.0	-	-
3	会員C	〃	0.0	-	-
4	会員D	〃	0.0	-	-
5	会員E	〃	0.0	-	-
6	会員F	〃	0.0	-	-
7	会員G	〃	0.0	-	-
8	会員H	〃	0.0	-	-
9	会員I	〃	0.0	-	-
10	会員J	〃	0.0	-	-